

研修で
学校が
変わる

副校長・教頭研修① まとめ



令和2年6月12日(金)

TV会議による遠隔講義

「子どもが輝く学校づくり」

講師 松久 眞実 氏(桃山学院教育大学 教授)

【研修のねらい】

- すべての子どもが自分のよさを発揮できる学校づくりについて理解を深め、副校長・教頭として学校運営能力の向上を図る。

◇学級経営のポイントは3つのフェーズ

学級経営の3つのフェーズ

秩序 フェーズ	ルールの確立 始動期 ・学級の土台や秩序を作る ・崩れない学級経営
育成 フェーズ	児童生徒の参加 展開期 ・子ども同士のつながり ・教師主導から子ども主導へ
成長 フェーズ	自主性の育成や自治 発展期 ・子どもの能力を伸ばす ・子どもの自主性に任せていく

秩序フェーズの3本柱

①叱る基準を明確にする

森レベル・林レベル・木レベル

- ・いつ怒られるかわからない時に不安になる えこひいきとを感じる 気分によって変わる教師をなめる
 - ・初めから、怒り方の3レベルを告知しておく、怒られても納得する
 - ・見通しの立つ怒り方、あいまいではなく明確な怒り方 4月初めに構造化
- 森レベル・・人の心と体を傷つけた時
林レベル・・できることをしない時
木レベル・・忘れ物や給食を残した時

4月初めに構造化

②教室の刺激を減らす 静寂の時間の投入

興奮させると

- ・ますますしゃべる・教室が騒がしくなる・集中できない・教師の話は耳に入らない
 - ・トラブルを起こす
- 教室の音を徹底的に減らす**
- ・教室の音を減らす・こちらの落ち着きに巻き込む・教師の言葉を減らす

③中間層を味方につけ、支援の必要な子どもを巻きこむ

- ・「優等生」「中間層」「逸脱層」に分かれている
- ・中間層を味方につける・授業を進める・楽しそうに演技する

この学びをこう活かす

学級経営について 研修で学んだことを今後どのような場面で活かしたいか

- 学級経営の3つのフェーズ**が具体的で参考になった。
- ・学級経営がうまくいかず悩む担任に学級がどのフェーズか見極め助言したい。何が大切かアドバイスする際に活かしていきたい。
- ・職員研修で伝えるとともに、学校でそろえる枠(ルール)を職員で出し合い、スタンダードとして取り組んでいくことをしたい。
- 秩序フェーズ**の学級への手立てを活かしたい
- ・秩序のある学級づくりの必要性は痛感している。3本柱やその具体を教職員に伝え、学級づくりの再確認を全職員で行いたい。
- ・中間層を味方につけ支援の必要な子を巻き込む等学級の土台を作り上げていくことで児童の自主性や自治力の育成に向かっていける話は、職員で共有していきたい。
- 静寂の時間**はすぐにでき有効な手立てだ。
- ・学校体制として静寂の時間を今以上に意識し設定する方向で考えたい。
- ・講義内容が学校づくりのために大変参考になった。学校全体で静寂の時間を設定すると落ち着いた学校になると思う。
- ADHDの脳**
- ・脳は、眠たいのに眠れない時の身体の状況と意欲のなさであることが分かった。教職員に伝えていきたい。(部分抜粋)

◇職員室経営とは

- ・教員にもいろいろな背景を持っている方々がいる・・・発達のがみ・愛着のくずれ
- ・精神医学的な症状・・・認知がゆがんでいる教師
- ・信頼関係がないと、指導は入らない
- ・ASDの傾向のある教師には、視覚支援・見通し・具体的な指示が必要

この学びをこう活かす 職員室経営について

- ・職員にも色々な背景を持っている方がいることを忘れないようにし、職務へ取り組む姿勢に気を配り、頑張りを受けていきたい。
- ・職員に対しても、特性に合った指導・支援の仕方が必要であることを認識した。「教職員の背景を理解することで信頼関係を作る」ことからスタートしたい。
- ・職員室が安心できる場であり、元気が出る場であるように努めたい。一人一人がよさを発揮できるよう支えていきたい。
- ・支援の必要のある児童への対応と、先生方との対応の方法に共通することがあるという見方がとても参考になった。先生方への声かけや支援等個に応じたやり方を工夫していきたい。(部分抜粋)